

降誕祭聖体礼儀のザダストイニク（「常に福」に代えて）

※ 歌うことが難しいようであれば、いつも通りの「常に福」で良いです。

わ我がたましいや、そんき
とこ光うえ榮いの天ぐ軍んにま優
さるど童うていちよいときよ
きかみのははをほめあげよ。
おそれによつてもくねんをたもつはぶじに
お畏れ因黙然をた保もつはぶじに
しててきぎなり、かつどうてしちよ
適宜、な爾んぢをあいするによ
や、な爾愛因ってしら
べのよ良くまつとうせるうた
をつくるはやすからず、
しかもな爾んぢは母はやはみ
づからわ我がねつし心んにおおじて



【 領聖詞 繰り返し歌う 】

しゆはそのたみにすくいをつかわせ
り。

句) しゆ われこころ まつと なんぢ ぎしゃ しゅうぎ うち およ かい うち さんえい
主よ、我心を全うして爾を義者の集議の中、及び會の中に讚榮す。

句) しゆ しわざ おおい およ これ あい もの ため した
主の所爲は大にして、凡そ之を愛する者の爲に慕うべし。

句) しわざ こうえい びれい そのぎ なが そん
その所爲は光榮なり、美麗なり、其義は永く存す。

句) かれ そのきせき わず ベ もの な しゆ じれん こうおん
かれ その奇跡を忘る可からざる者と爲せり、主は慈憐にして鴻恩なり。

句) かれ おのれ おそ もの かて あた なが そのやく きねん
かれ おのれを畏るる者に糧を予え、永く其約を記念す。

句) かれ そのしわざ ちから そのたみ あらわ これ いほうじん しきょう あた ため
かれ その所爲の力を其民に顯せり、之に異邦人の嗣業を與えん爲なり。

句) そのて しわざ しんじつ こうぎ そのことごと いましめ ただ よよ けんご
其手の所爲は眞實なり、公義なり、其悉くの誠は正しく、世世に堅固にして、

しんじつ せいちょく もとい な
眞實と正直とを基と爲せり。

句) かれ そのたみ すくい つかわ そのやく えいえん た
かれ そのたみに救を遣し、其約を永遠に立てたり。